

日野市立教育センター所報

教育センターだより

第4号 平成17年3月7日発行



日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分



学校教育と生涯学習の連携を

日野市教育委員会

教育部生涯学習担当参事 田中繁夫

“学校と家庭、地域との連携”が強く求められています。下記生涯学習関係部署の当面する課題や事業にご理解をお願いするとともに、連携を深めるための一助としていただければ幸いです。

【文化スポーツ課】

＜スポーツ振興計画の策定・総合体育館の建設＞

高齢化に伴う医療や介護等社会保障経費の増加、児童・生徒の体力の低下、情報化社会におけるストレスの増大や人間関係の疎遠など社会環境が大きく変化する中で、スポーツの果たす役割は大きくなっています。

このような社会環境の変化やスポーツの持つ役割を踏まえ、現在スポーツ振興計画を策定中です。今後、諸事業を具体的に推進する中で生涯学習・スポーツ社会に対応していきます。

また、新総合体育館の建設は長年の課題、懸案事項となっています。スポーツ振興や健康増進の中核的施設として、その実現に向けて取り組んでいるところです。

【図書館】

＜子ども読書活動推進計画の策定＞

子どもの「読書離れ」が指摘されている中で、現在公募市民も含めた委員会を設置し、子ども読書活動推進計画策定作業を進めています。今年の夏には計画書が出来上がる予定ですが、学校や家庭、地域とも積極的に連携し計画を具体化していく必要があると考えています。

＜日野図書館のリニューアル＞

昨年の多摩平図書館の開館や開館時間の延長・祝日開館により図書館機能はより充実されました。現在、日野図書館は老朽化と利用者増に対応するためリニューアル中ですが、建物の改修だけでなく、ソフト面の充実を図りより利用しやすい図書館をめざしていきます。

【公民館】

＜公民館等の建替に向けた調査研究・高幡台分室事業の充実＞

中央公民館は老朽化が進むと同時に利用者増により飽和状態となっています。現在、公民館を含めた周辺施設を建替える場合の課題の整理を行い、調査研究を行っているところです。

また、利用者増に対応するため昨年4月、教育センターの中に公民館の分室をオープンしました。より多くの人に利用してもらうため、事業の充実を図る必要があると考えています。

【ふるさと博物館】

＜ふるさと博物館は、(仮)新選組歴史館と(仮)郷土資料館に＞

新年度からふるさと博物館の建物は“新選組のふるさと日野”の展示を中心とした「新選組歴史館」に衣替えし、いままでの博物館の機能は郷土資料館に引き継がれます。

新しく発足する郷土資料館は歴史・民俗・自然の調査・研究等の他に週5日制対応事業、体験学習、学校の授業との連携等の事業をより積極的に展開していく予定です。

また、平成17年度の教育センターの調査研究事業に“ふるさと日野の郷土教育推進研究”を取り上げていただきましたので、センターともより連携を深めていきたいと考えています。

学校教育と社会教育の連携を表すものとして学社連携とか融合という言葉が使われ、その必要性が強く求められています。私たちが小さいときは毎日の生活そのものが学社連携と表現されるようなものでしたが、今はこのような言葉を使わなければならない時代となりました。生涯学習の各部署もこのことを肝に銘じ、学校教育とより積極的に連携を図っていきます。

調査研究事業の成果と課題

日野市の教育における基礎・基本の学力を確実に定着させる学習指導法の研究 ～ 小学校・国語，算数科と中学校・数学科で ～

教育課程研究委員会

今年度、「教育課程及び基礎基本の研究」は、17人の委員が3つの分科会に分かれ、11回の全体会と10回前後の分科会をもち、研究を進めました。

各地域の教育センターは、中央教育審議会の答申を受け、「学校が創意工夫に満ちた教育課程を編成するためにカリキュラムづくりの支援を行う」というセンター的機能を充実することが求められています。そこで、本教育センターは、教育課程(カリキュラム)を小中学校・園を通じて調査研究し、各学校・園で編成・実施する場合の支援を行うための研究を行うこととしました。特に取り上げたのは、基礎・基本の学力を確実に定着させる学習指導法の研究です。今年度は活動の1年目であり、その役割や活動内容を検討しました。

まず、これまでに得られた日野市の児童・生徒の実態を分析しました。

その結果から、指導の課題を明らかにし、各教科の「基礎・基本となる学力」の内容を「基礎・基本表」という形で明らかにすると共に、基礎・基本となる学力を「定着させる」ための実践的な学習指導法を研究することとしました。

分科会は、小学校国語，同算数、そして中学校数学の3つです。

小学校国語部会は、書くことに絞り、「基礎・基本表」を作成し、その裏づけとして指導講師を招き学習指導法を研究しました。研究を通して、児童の「書く力」を高めるためには、指導と評価が一体となった授業づくり、授業改善の大切さを改めて認識しました。

同算数部会は、「考え方」に絞り、参考となる授業を参観し、小学校の全学年の基礎・基本の定着に最も着目すべき、単元の1時間の学習指導法を研究しました。

わたしが選んだ単元

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1年：「かたちあそび」 | 2年：「あたらしい計算を考えよう」（かけ算1） |
| 3年：「新しい計算を考えよう」（わり算） | 4年：「計算のやくそくを調べよう」（計算のきまり） |
| 5年：「少数のわり算を考えよう！」 | 6年：「比べ方を考えよう」（単位量あたりの大きさ） |

今回の指導事例では、評価項目を思考力に絞ることで、考える力の育成の重要性を強調することができました。

中学校数学部会は、各中学校のアンケートがまとまり、これに全単元の「基礎・基本表」と対応策一覧表を作成しました。数学科としての基礎・基本の細かな部分まで探ることができ、1年生から3年生まで系統立てて基礎・基本の確認ができました。

こうした研究成果をもとに、2月28日の報告会で、(1)教育課程研究の必要性 (2)小学校国語部会：「書くこと」に絞った各学年の指導一覧と指導事例 (3)小学校算数部会：「考え方」に注目し、基礎・基本の分析を元にした具体的指導事例、各委員の「私のおすすめの単元」 (4)中学校数学部会：数学指導の問題点とその対応策の一覧 (5)今年度の研究の成果と課題、今後の研究の方向 について報告しました。

本委員会では、**研究集録**を編纂し、2つの方法で各学校に提供いたします。1つ目は、報告の詳細をまとめた集録を配布します。2つ目は集録を電子化してCDにまとめ、配布します。今後各学校で教育課程の編成に役立てていただきたいと願っております。

少人数指導の効果的な活用についての研究

少人数指導推進委員会

1. 趣旨

現在、「確かな学力」を飛躍的に向上させるための総合的施策（文科省初等中等教育局 平成16年5月）、学習指導要領の一部改正（平成15年12月）を踏まえ、「生きる力」や「確かな学力」の育成のために、少人数加配が行われています。

また、本研究は、日野市の学校に配置されている少人数指導の効果的な活用について研究を深め、少人数加配教員・教員補助者等、地域も含む教育力の効果的な活用方法について明らかにすることも課題としています。その課題解決のために、これまでの各学校の成果を分析し、その活用方法について明らかにすること、少人数指導の効果的な評価方法を明らかにすること、等を行っています。

2. 概要

日野市に配置されている少人数指導加配教員を活用しての少人数指導の状況を把握すると共に、参考文献や資料収集を通して、国・都・区市の先行研究を調査・研究すると共に、研究協力校の実践を通して、効果的な少人数指導のあり方を学校経営の視点から明らかにし、本市の少人数指導の充実を図るための調査研究を行いました。

3. 成果と課題

市内各小・中学校の少人数指導の実態調査から、本市の少人数指導の実態が把握でき、合わせて文部科学省の調査研究と比較検討を通し、次のような少人数指導実施上の課題が把握できました。

課題：「授業の構造改革の必要、少人数指導のための体制づくり、指導計画・評価計画の作成、児童・生徒及び保護者・地域への理解を図ること、加配教員配置のあり方、教員補助者の活用等の改善」等

少人数指導を効果的に推進する方策として、「学習は、子ども一人一人において個別に成立する。」の視点から、固定観念を排した授業の構造改革が必要であること。少人数指導は人的な制限や限界を克服するために生み出され、指導方法や指導体制の改善策として打ち出されたシステムであり、校内に推進のシステムをどう確立するかが大事であるということが具体事例を通して把握できました。

そのために「学校としての少人数指導の理念を明確に」し、加配教員の配置や推進するための組織のあり方を工夫していく必要があります。これらを基に、小集団の編成の仕方など、個人差（個性）を教師等による客観的評価と児童・生徒の自己評価を基にして小集団を流動的に活用していく等の共通実践と共通理解が必要です。

さらに、各教員や教員補助者、ボランティアが指導上有効に機能していくために、十分な意思疎通の時間を設けること、教育計画の中にこれらのことを盛り込み、教員補助者、地域ボランティアを含む地域の教育力の活用化を図っていくこと、形成的評価のあり方等を工夫し、子ども・保護者へ学校と家庭が一体となって進める必要があることを啓発していく。

今後の課題として、 少人数指導の充実に向けて組織的な活動を充実させること、習熟度別指導等、指導方法の違いを指導計画に反映させる実践の積み重ね、指導の充実のために、インターシップとして学生等の指導補助員の活用化、実践を通じた指導計画・指導教材等の教材センター的機能の設置、保護者地域の協力のあり方、等があげられます。

ひのっ子教育 2 1 研究

教科等教育係



研究員総会

日野市教育委員会教育目標の達成を目指し、幼児教育、教科領域等の教育内容・教育方法の実践的研究を行う「ひのっ子教育21研究員会」は、7年目の日野市における学校教育の振興を図ってきました。

その年度の日野市の抱える教育課題によって研究テーマは変わってきました。

平成16年4月28日、発足会というべき研究員総会が日野市立教育センターで開催されました。

本年度は、「一人一人のよさや可能性を伸ばす指導の改善」を共通テーマとして、幼稚園部会、小学校国語部会、小学校算数部会、中学校部会の4部会に分かれて研究を深めてきました。

各部会研究の方向付けを果たしたのが、8月3～4日の日野市立大成荘における宿泊研究集会でした。この宿泊研究集会については前回の「教育センターだより」で、ご報告申し上げました。

8月24日、日野市立教育センター講堂にて、「中間発表会」が持たれました。

幼稚園部会が「知的好奇心の発達に関する研究」、小学校国語部会が「表現力を伸ばす個に応じた指導の工夫」、小学校算数部会が「数学的に考える力を伸ばす個に応じた指導の工夫」、中学校部会は「総合的な学習の時間における指導と評価の一体化」というサブテーマ



宿泊研究集会

を掲げ、これまでの研究内容、そして今後の研究の進め方についてパワーポイントを使った意欲的な発表を行いました。その席上、各園・小中学校の校長・教頭先生方より厳しくも温かい指導助言がなされました。

また、教育委員会より講評があり、研究員の研究意欲をますます高めてくれました。



中間発表会

2学期に入ってから、各部会ごとに研究授業が開催され、研究内容の深まりが進んできました。

平成17年2月の23日（水）に日野第七小学校で公開授業、その後市民会館大ホールで研究発表会が行われます。昨年度は地域の方も含め450名を越す参観者で盛況でした。

日野第七小学校での公開授業は、小学校国語部会が4年生の「ごんぎつね」を日野第二小学校の清家先生が、小学校算数部会では6年生の「算数ワンダーランド」を日野第七小学校の山口先生が行います。幼稚園部会、中学校部会は小学校が会場ということで、公開授業は行えませんがVTR放映などの方法で発表ができるようにと考えております。

市民会館では発表後、講演会があり、早稲田大学人間科学部助教授 浅田 匡 先生が「自らの授業から学ぶことー教師としての成長するー」という演題で講演をしてくださり、会場の市内幼・小・中教員に教師としての心構えを高めてくださいます。このように「ひのっ子教育21研究」は、本年度の最終発表、まとめ順調にまといつつあります。

なお、研究集録は3月に入ってから、研究集録CDにて配布する予定でおります。どうぞ、ご覧ください。



幼稚園の授業研究風景



熱心な部会活動

環境教育推進とひのっ子エコアクションの開発・導入のための研究

環境教育推進委員会

1. 趣 旨

環境問題を解決していくためには、私たち一人一人が人間と環境とのかかわりについて理解と認識を深め、環境に配慮した生活や行動をとることが大切です。

そのために、「環境から学ぶ」「環境について学ぶ」「環境のために学ぶ」環境教育の推進が学校教育に求められています。

日野市は、平成7年に日野市環境基本条例を制定。平成11年には日野市環境基本計画を策定。平成12年12月「ISO14001」（環境マネジメントシステム）を認証登録し、市をあげて環境保全の行動を行っています。

学校教育の場においても「環境を保全する活動を実践し、環境にやさしい学校づくり」を目指すことが課題です。

そのためには、児童・生徒と教師が一緒に、「環境から学ぶ」「環境について学ぶ」を生かし、環境を守るために学校生活の中で何ができるのか、どんな仕組みを作るのかなどを考える「環境のために学ぶ」学習を目指すことです。

2. 概 要

文献や資料を収集し参考にするとともに、先進市における学校版環境ISOの内容を調査・研究ならびに課題研究校における環境教育の実践を行う中で、児童・生徒や教職員の環境に対する意識啓発ためにISO14001の理念を生かす「ひのっ子エコアクションプログラム」の開発、導入のための調査・研究を行いました。

3. 成果と課題

今回の課題研究を通して、環境教育を学校教育の中に明確に位置づけ「環境から学ぶ」「環境について学ぶ」「環境のために学ぶ」学習を継続的に行っていくことが、人間と環境とのかかわりについて理解と認識を深め、環境に配慮した生活や行動をとる児童の育成にとって重要であることを再認識できました。

研究の成果として、学校における環境活動のマニュアルとなる「ひのっ子エコアクションプログラム」を作成しました。このプログラムを基に、日野市の各学校における環境学習をより効果的に進め、さらに充実させていくことが大切です。

今後、「ひのっ子エコアクションプログラム」を各学校で実践し、児童・生徒と教師がともに環境に対する意識を高め「環境にやさしい学校づくり」の活動を充実発展させていくことが大切です。また、多くの実践を積み上げ、「ひのっ子エコアクションプログラム」の内容をさらに充実させていくことも重要です。

今回は、小学校を中心にした実践事例だけですので、中学校における実践事例の開発にも力を注ぐ必要があります。



地域教育の推進にむけて

地域教育推進委員会

本係は、日野市社会教育委員の提言や、東京都の学校外教育施策の基本的な考え方、日野市内の公立小中学校区の地域活動の種類の調査や、子どもたちの土曜日の過ごし方の実態等から、市内の地域活動をもっと活発に、そして地域の子どもたちがふれあう大人のリーダーをもっと増やしたいという願いから、以下のような事業を進めました。

1. 地域教育推進研究委員会の発足

経過

第1回地域教育推進研究委員会	8月30日（月）	地域教育推進研究委員会の発足
第2回	10月19日（火）	委嘱状交付 パネルディスカッションの実施計画
第3回	1月19日（水）	パネルディスカッションの総括
第4回	3月29日（火）	今年度のまとめと反省

2. 成果

○パネルディスカッションの実施

12月14日（土）2時～ ・場所：教育センター

- ・テーマ 「地域の教育力の充実に向けて」—— 子ども達の学びを育てるために
- ・参加者 33名
- ・パネラー 山口さん、奥住さん、若松さん、小澤さん
- ・コーディネーター 正留副委員長

○課題の明確化

以下の課題があらためて明確化されました。

- ・保護者は子どもの土日の過ごし方や地域での関わり方に何を望んでいるか。
- ・リーダーが不足している。
- ・リーダーの予備軍としては PTA が考えられるが活動する人材は少ない。
- ・育成会やその他の地域の行事に参加する子どもが少ない。
- ・公民館活動に参加している人は公民館周辺の人である。
- ・地域活動をしているリーダーは活動が錯綜して非常に忙しい。
- ・学校が地域活動に目を向け、子どもを指導すると参加が増える。
- ・各地域活動の情報交換やネットワークが出来ていない。



3. 今後の課題と研究の方向

今後「各地域活動のネットワークづくりをどのように作っていくか」「地域で活躍するリーダーをもっと増やしたいが、養成するための研修システムをどのように進めていくか」「地域リーダーが活動しやすいもろもろの環境づくりをどう構築していくか」「魅力ある地域活動をどのように創って行くか」「子ども・保護者に、どんな方法で参加しようとする意欲をつけていくか」等の課題について、さらに研究を進めていくことが必要です。

＝ 平成17年度 日野市教育委員会研修予定 ＝

教職員研修係

年度末が近づき、各幼稚園、小・中学校の先生方は、来年度のライフステージに応じた研修計画を立案中と思います。

平成16年度（本年度）の研修は、日野市教育委員会学校課と教育センターが一体となって研修を進め、盛況のうちに終了しました。日野市教育委員会では来年度も、更に、先生方の専門性と指導力の向上・育成のために、研修計画を下記のように進めています。

学校組織マネジメント研修会

◎マネジメント研修Ⅰ（校長）

①学校経営計画の戦略立案 ②学校経営のマネジメント ③学校危機管理の在り方

◎マネジメント研修Ⅱ（教頭）

①学校経営と組織マネジメント ②人材育成と能力開発、人事管理 ③学校における危機管理
④学校における接遇の在り方 ④教職員のメンタルヘルス

◎マネジメント研修Ⅲ（主幹）

①主幹への期待とその職責 ②学校の活性化と組織マネジメント ③学校における接遇の在り方
④校内における教員の能力育成 ⑤主幹としての1年を振り返って

教育課題研修会（幼・小・中教員）

①評価 ②人権教育（授業計画） ③心の教育 ④郷土教育 ⑤国際理解教育（小学校の英語教育）
⑥生命尊重教育（学校飼育動物研修）

教科等専門研修会（小・中教員）

①全体会 ②小・中学校各教科別研修

2・3年次教員 授業力アップ研修会（経験2・3年目教員）

①自分の授業分析方法 ②授業分析、相互評価、児童・生徒への伝え方 ③発問・助言・説明の技法 ④学習指導案の見直し、授業改善案作成 ⑤ミニ授業 ⑥授業研究

特別支援教育・コーディネーター養成研修会（小・中教員）

①LD・ADHD・高機能自閉症等の児童・生徒への指導と教員のかかわり ②特別支援教育コーディネーターの概論、個別指導計画の作成 ③医療との連携 ④特別支援学校との連携・障害についてのガイダンス

教育相談研修会（幼・小・中教員）

①構成的グループエンカウンターの実習 ②ロールプレイングの実際

情報教育研修会

◎ICT活用管理職研修 ICTの活用について

◎ICT活用研修A（小・中教員全員）①ネット社会で生きる、加害者にも被害者にもならないために ②e-learningの研修

◎ICT活用研修B（小・中教員）①授業での活用Ⅰ（プレゼンテーションソフト活用）②授業での活用Ⅱ（教材作成）

◎ICT活用研修（小・中教員）①ホームページ作成（基本） ②ホームページ作成（応用）

幼児教育研修会（幼・小教員）

①義務教育へつなげる就学前教育 ②思考力の基礎を培う教育 ③授業研究（小学校生活科）
④保育研究（幼・小連携の活動場面）

一般教育相談の活動と課題

一般教育相談係

本年度新たに相談部一般教育相談係としてスタートし、約1年となりました。この間、皆様に多大なるご協力を頂きまして、本当にありがとうございます。

一般教育相談では、4月新たにスタッフ3名が入れかわり5名でスタートいたしました。主な業務内容は教育相談、電話相談、子どもこころの電話相談です。その他就学相談の予備面接、依頼された知能検査、各校配置のスクールカウンセラーや関係機関との連携事業等も行っております。特に児童・生徒の通学している学校との連携は欠かすことが出来ません。学校を経由しての紹介は、学校訪問や電話等で、学校生活上や家庭等の情報を交換しながら相談を進めています。家庭より電話で直接教育相談に申し込んで来られるケースも、個人情報等に留意しながら対応しております。

一人一人の抱えている課題や相談内容は多岐にわたっており、一朝一夕に解決することは難しいことが多くあります。しかし、本質的な困難さはどこに存在するのかが特定されてくれば改善に向かっていくことも可能になります。その本質的なこと、つまり根幹と思われる要因はさまざまですが、人それぞれの育ちの過程や周囲の取り巻く環境をサポートすることで改善に向かうことがあります。そのためには面接等を通して心理的な分析や心理検査、知能検査等も必要になることがあります。私達は児童・生徒との関係を大切に保ち、更に保護者の皆様からも信頼される関係作りに努めております。電話や学校訪問等で協力関係構築にも努めております。

電話相談においても本質的には大きな違いはありません。相談内容が、簡単に結論が出たり、明確な解決策があるときなどは他機関を紹介したり、今後の方向性を示唆することで終結させてもらうこともあります。課題によっては来室面接に発展することもあります。電話相談は本相談室がインターネット等に掲載されているために、他の県や市からアクセスしてくることもあります。その時は当該地の相談機関等を紹介したり相談にのったりしています。

子どもこころの電話相談では児童・生徒本人からの相談が多く、時には泣きながら困っていることを話すケースもあります。

不登校等のケースでは、個別面接で児童・生徒にはプレイセラピーやカウンセリングを、親御さんにはこころの整理や家族関係等の取り巻く環境調整等を話し合います。そのような関係を続けながら、学業面や集団参加に慣れていくステップとしての支援のために「わかば教室」等と連携することもあります。関係機関との連携では、特別支援教育に関わる計画等への参加や学童クラブ等に通っているケースへの支援等も行っております。

相談件数は、昨年度より引き継いだ相談が87件、今年度は12月までに58件を受け付けました。合わせると145件と例年より増えている現状です。面接等に追われています。**主訴別の受付傾向**としては、多いものから順に、不登校、軽度の発達障害、学業に関すること、集団からの逸脱、落ち着き無し、神経性習癖、情緒障害等です。

日野市においては本年度、児童・生徒が社会問題として取り上げられたことはありませんでしたが、今後、児童・生徒の被害や災害等への対応等にも気を配っていかねばならないと考えております。

今後ともさまざまなことでの連携協力をお願いいたします。

共感的、肯定的な理解から心理に目を向ける

学校生活相談係・わかば教室

学校生活相談は、①**共感的に理解する**（精一杯耳を傾け、相手の立場になって理解する）②**肯定的に理解する**（「早く寝ないから、朝起きられない」と見るか、「寝られないのは、何か気になることがあるのか」で大きな違いがある）③**子どもの心理に目を向ける**（表情の下に隠された事実）を相談の基本姿勢としています。また、「わかば教室」に通室を始めた児童生徒には、こうした理解を日常の指導につなげ、個別指導・支援を行っています。

本年度も市の委託事業の「スクーリングサポートネットワーク」事業を推進。健全育成関係では、各学校の協力のもとに毎月の調査から、市内の児童生徒長期欠席の実態把握と助言など、日野市立教育センター相談部の学校生活相談係・「わかば教室」として、その整備・充実を図りながら、児童生徒の望ましい変容の確認、社会性を育む豊かな体験活動を重視して運営してきました。

1、相談から通室（登校）ができるまで、電話・訪問・手紙などによる継続的な働きかけ

家にこもりがちな子どもが、相談から約3ヶ月後、本教室に通室を始め、集団の輪へ入ることに応じ、落ち着いた表情で自己理解をするまでに成長した事例では、保護者と一体になれた連携、ゆとりある家庭の働きかけがよい結果を生んだものと思います。継続は力です。

2、育成方針を明確にした児童生徒の個別指導・支援計画作成

わかば教室、保護者、在籍校の三者が共有し、その働きかけを意図的・計画的に行うことを目的とし、わかば教室で指導・支援する5つの基本となる能力、それぞれの能力の段階別目標を設定しました。学校復帰の時期を目安においた指導・支援のあり方の改善を図っています。

3、市内の公立中学校の先生を講師に、健康教育「体と心の成長」の授業

「望ましい成長・発達のために大切なことは何か」「心の健康と頭の働きとの関係は」を主たる内容として、養護教諭の先生方よりご指導いただきました。在籍校の先生を迎えた子どもの笑顔には格別なものがあります。

4、温かな応援をたくさんの方々からいただく発表会「わかば音楽会」

センターの講堂を使い、子ども達の合唱・合奏、声楽家による独唱、指導員のハンドベルによる演奏・歌、を聴いていただきました。保護者、近隣の老人ホームや保育園、公民館関係、センターの皆様の前で、歌や演奏による表現の楽しさ、明るいハーモニーをつくり上げた達成感を体得。本教室への理解と、発表体験のよい機会となっています。

5、スクーリングサポートネットワーク事業の推進

秋の遠足を推進事業として企画。市内の各公立小学校に、長期に欠席していたり、登校を渋りがちだったりする児童生徒への参加呼びかけを依頼。当日は「わかば教室」の小中学生と交流、動物とのふれあい・酪農体験のあとは、体を存分に動かし心地よい汗を流しました。

この行事に参加して、明るい言動が見られるようになったという話や、本教室に体験通室を始めた児童の姿を通して、元気のもとをサポートする本教室の役割を強く受け止めています。

通室する子どもたち一人ひとりの違いはありますが、どの子どもたちも笑顔と明るさ、集団の帰属感と活気を確実にとりもどしながら前進しています。

この一年、全体的には登校渋りや、不登校に関する相談が多い中で、最近になって学校生活上のトラブルによる無気力化や、教師と子どもとの対話が成り立たない実態など、相談内容が多様化してきています。「わかば教室」を初めて訪ねる児童生徒・その保護者との相談、通室してきている児童生徒へのカウンセリング・指導の他に、学校への架け橋的役割の比重がさらに増していくことが予想されます。